

小学校のキャリア特別授業に参加

矢島鉄筋工業

矢島鉄筋工業の矢島孝夫社長は9月28日、東京都墨田区の区立第三吾嬬小学校が実施したキャリア教育特別授業に「建設業」の講師として参加し、座学と実技を通して建設業や鉄筋工事の魅力を子どもたちに伝えた。写真。

今回で7回目となる、この授業は5、6年生を対象とし、建設業のほか、保育士やファイナンシャルプランナー、スポーツ選手、化粧品関連企業など、さまざまな職業のエキスパートが参加した。

矢島社長の授業を受けた約20人の児童は、高層建築物や建物の構造、鉄筋の役割などを動画も交えながら学び、鉄筋の特徴や作り方を熱心にメモしていた。地震などの災害が起きた際の対応にも理解を深めた。



実技では、ハッカーによる手作業と鉄筋自動結束機を使った鉄筋の結束を実際に体験した。鉄筋結束機を使った子どもたちと、同社の職人が手作業で結束の速さを競い合うなど、建設現場での機械化の進展による効果も体感していた。

川中子登志雄校長は「キャリア教育は、子どもたちが大人になる上で、どのような大人になれば良いのか、働くことは何なのか、生きることの目標を持つための取り組みだ。子どもたちはさまざまなことを考え、将来このような大人になりたいと思える良い機会になる」と話している。

日刊建設通信新聞 10月30日号

小学校でキャリア授業

災害時避難の説明や結束体験

工業長 矢島鉄筋工業 矢島

矢島鉄筋工業（東京都墨田区）の矢島孝夫社長が、9月28日に東京・墨田区立第三吾嬬小学校で行われたキャリア教育特別授業で建設・鉄筋業の先生を務めた。災害時の避難方法やRC構造などを分かりやすく説明するとともに、児童や保護者らに鉄筋の結束作業を体験してもらった。授業を受けた小学生は「コンクリートの中に鉄筋が入っているのを初めて知った。結束は楽しかった」と目を輝かせていた。

キャリア教育特別授業は5、6年生を対象に実施。

地域の人々が先生となり、それぞれの仕事やさまざまな



自動結束機を使って職人と結束作業を競う

な活動を託す。授業は9講座に分かれ、矢島社長が先生を務めた建設・鉄筋業の授業には18人が参加した。

矢島社長は建設業が整備する建物や各種施設を紹介した上で、東日本大震災時の避難写真などを見せ、津波や洪水時には「とにかく丈夫な建物の高いところに逃げてください」と話した。さらに実物の鉄筋を教室内に持ち込み「この教室のコンクリートの柱の中にも鉄筋が入っている。酸性の鉄筋の回りにアルカリ性

のコンクリートがあるので、鉄筋が錆びず、火にも強い」と説明した。

その後、児童らに自動結束機とハッカーを使って鉄筋の結束作業を実際に体験してもらった。同社の職人と児童らが自動結束機を使ってどちらが早く結束作業ができたかを競った。自動結束機を持った児童が職人に勝つと、歓声が上がっていた。

同校の川中子登志雄校長は「キャリア教育特別授業は今回が7回目。地域の人がどんな仕事をし、どんな活動をしているのかを話してもらっている。協力してもらっている地元の方々には大変感謝をしている。今日の話を聞き、子どもたちが将来こんな仕事になりたい、こんな大人になりたいと感じてくれると思う」と語った。